

## 今大会を顧みて

日本教職員バドミントン連盟  
副会長 稲石 一雄

27年ぶりの奈良県での大会でした。前回、私は家族連れで選手として参加しました。奈良では「なら・シルクロード博覧会」が開催されており、沙漠の気候と言うのを体験しました。また「となりのトトロ」が公開された年でもあります。大変暑かったと記憶しています。

今回は会場が替わって田原本町をメイン会場に開催されましたが、さすが奈良県、ホテルからの道筋には唐古・鍵遺跡がまるで近所の公園のような佇まいで公開されていました。歴史の教科書や図説には必ず名前が出ている遺跡です。また、ホテルの近くには平城京跡があり大極殿や朱雀門が再建されており、往時をしのぶことが出来ました。

さて、試合についてですが、今年は成壮年女子団体が初めて実施されました。今年の参加が6チームでしたので来年もエキジビションで行われることになりませんが、8チーム以上参加すれば次の年は正式種目になるので、ぜひお互いに声を掛け合って参加数を増やしてください。

試合内容は和やかな中にも盛り上がりを見せていました。一般男子団体では地元奈良県が準優勝しました。準決勝では第2シングルの土井選手がファイナルの14 - 18から7点連取で勝負を決めました。教え子と思われる子供たちの熱い応援と歓声が響いていました。

個人戦では一般男女とも国体を控えた和歌山県の活躍が目を引きました。40歳以上男子の部では地元の千田選手がベスト4に入り、ダブルスでも千田・平岡組が準優勝をしました。千田・平岡組は4連覇を逃したとはいえ、千田選手は開催地の事務局という激務の中での好成績は称賛に値します。50歳以上女子単では東京の江澤選手が初優勝。「信じられない」、という顔をしていたのが印象的でした。

運営はレフェリー報告にもあるように気温と湿度の上昇があり、窓を開けて試合が進行されました。昔のセナヤン・スタジアムか、とツッコミを入れようかと思いました。(若い人には分からない話ですね。)カーテンはあまり揺れていなかったため、大きな影響はなかったようです。奈良学園中学高等学校体育館では気温と湿度の影響で床が滑り、大変プレーがしにくかったと思いますが、高校生が一生懸命にタオルで床を拭いてくれた姿に関場会長は痛く感銘を受けていました。彼らの中から我々の後進が育ってくるのですから、出場選手を含め我々はお手伝いの生徒さんに感謝をし、真摯にプレーをする姿を見せなければいけないと改めて感じました。なお、会場内に試合進行を知らせるボードが置いてあったのはいいアイデアだと思いました。

最後になりましたが、今回の開催にご尽力いただいた関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

